



# 能勢高校ニュースレター

第43号 H.22. 11月発行

夜明け前の最低気温が氷点下となる日もある今日この頃、みなさま風邪などひいていませんか？能勢高校はまだまだイベントが目白押しです。ニュースレター11月号をお届けします。

## 本校生が能勢文化フェスティバルで大活躍

10月30日(土)～11月3日(祝)まで、恒例の能勢文化フェスティバルが開催されました。久々小学校体育館では、美術部と華道部の作品に加え、生徒会が本校文化祭で制作した能勢町の巨大な立体地図を展示し、高い評価を得ました。淨るりシアターでは、茶道部が見事なお手前を披露しました。また、ホールでのダンス部のパフォーマンスは、とても魅力ある楽しい演出もあり、聴衆から大きな拍手をいただいていた。生徒会役員たちも大活躍で、栗まつりに引き続きあいさつ運動で頑張りました。このイベント全体を通じ、能勢町に“能勢高ありといった存在感”をアピールすることができました。また、生徒たちの大きな励みにもなりました。今後一層の活躍が期待されます。



能勢高校美術部



## 能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育 第8回 研究発表会を開催

11月16日(月)、町立西中学校において、能勢地域小中高一貫教育・連携型中高一貫教育 第8回研究発表会を開催しました。この発表会は、能勢町の小中高一貫教育の成果を発信するとともに、参加者等から幅広い意見をいただき、小中高一貫教育の一層の改善充実をはかることを目的とし、今回は「能勢町教育イノベーションプロジェクト事業」の成果発表と併せて開催しました。

第1部は、西中学校の能勢町教育イノベーションプロジェクト事業に係る授業、西中学校と小学校や高校(本校)との連携、さらには小学校とNPOとの連携による授業を公開しました。本校は、西中学校との連携による中学2年生を対象とした「高校生に学ぶ」授業を行いました。この授業の特徴は、高校生が先生となり、中学生を教えることにあります。つまり、高校での「産業社会と人間・総合的な学習の時間」「農場の授業」「国際交流・希望者進学講座」「クラブ活動」など、本校の特色ある様々な取組みについて自分たちでまとめ、中学生に伝えていくものです。高校生にとり、多少のプレッシャーはありましたが、後輩たちの前でうまく授業を行うことができました。また、中学生にとり、能勢高校で学ぶ先輩たちの様子や高校生活が伺える貴重な機会となり、12月10日(金)の本校体験入学への導入となりました。

体育館で行われた第2部では、西中学校の先生方の発表に加え、本校2年生が「国際理解教育・ユネスコスクールについて」発表しました。本校の国際理解教育の取組み内容やユネスコスクールとしての活動をうまく紹介してくれました。また、引き続き、大阪府教育委員会教育振興室高等学校課 松本昇参事から指導講評をいただきました。さらに、能勢町の教育に深く関わっていただいている、京都造形芸術大学の寺脇研教授からは、「生涯学び続ける子に・・・！町全体が学びのフィールド」をテーマとした記念講演を通じ、能勢町の小中高一貫教育に力強いエールを送っていただきました。



能勢高生が先生となった「高校生に学ぶ」授業



「国際理解教育・ユネスコスクールについて」発表



寺脇研教授による記念講演

## 総合学科研究発表会に参加しました

1月19日に大阪市東淀川区にある「大阪市立もと飛鳥人権文化センター」にて、第5回大阪府総合学科高等学校研究発表会が開催されました。今回は『総合学科は未来を担います』をテーマにして、大阪府下12の総合学科高校が多彩な学びの数々を舞台発表や展示によりアピールしました。大阪市立扇町総合高等学校吹奏楽部による華麗な演奏で幕を開け、大阪府立柴島高等学校和太鼓部による力強いパフォーマンスで終了しました。

本校からは、2年生の石田麻莉さんと遠山遥さんが、「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」を中心におこなっている能勢高校のユネスコ・スクールネットワークに関わる取組みで、持続発展教育(ESD: Education for Sustainable Development)の展開について発表しました。本校の持つ強みである「地域コミュニティー」を最大限に生かしながら、総合学科での「系列学習」でその学びを実践している様子をわかりやすく説明していました。参加者のみなさんに能勢高校ならではの教育成果をしっかりと伝えていたと思います。



## 里山の秋 オープンフェスタ ~本校で繁殖させたキジを放鳥しました~

本校農場では、果樹や野菜、草花の栽培や利用に加え、ヒツジやニワトリ、クジャクなどの動物の飼育を行っています。特にキジについては、里山保全活動として、人工的に繁殖させ、ほぼ毎年、成長したキジを放鳥しています。

このたび、能勢町にある「豊中市青少年自然の家わっぱる」から依頼があり、11月20日(土)の「里山の秋オープンフェスタ」で、本校と共同でキジの放鳥イベントを行うことになりました。



ワークショップ (キジの塗り絵)

この日は、天候に恵まれ、とても暖かい一日でした。本校からは、キジの飼育に係わっている農業クラブの生徒6名が参加し、朝から、「キジとイモリの体験コーナー」を通じ、参加した子どもたちやその家族に対し「キジとイモリの説明やワークショップ」を行いました。

午後からのキジの放鳥には、100名以上となる参加者全員が集まり、緊張の高まる中、行われました。キジはかご(ケージ)の中でもかなり興奮しており、捕まえるのに苦労しましたが、捕まえた後は、少しおとなしくなり、参加した子どもたちに体をなでてもらえるほどでした。一斉に放されたキジ5羽は、それぞれ別方向に飛び立ちました。この地の豊かな自然が維持され、多くのキジが生息してくれることを期待しています。



子どもたちと  
キジとの  
ふれあい

飛び立つ  
キジ



## 平成22年度 PTA 研修を実施しました

本校は毎年PTA研修を、農場を活用して行っておりますが、今年度は能勢町教育イノベーションプロジェクト事業の一環として、町内の他のPTAにも参加を呼び掛けることとし、能勢高校プラン『いきいき・わくわく・のせこうファーム』のスタート事業と位置付けて、10月31日(日)の午前に実施いたしました。本校PTAだけでなく、町内の4小学校のPTAからご参加をいただき、総勢27名でにぎやかに、美味しい研修になりました。本校の間教諭が「木灰こんにやく作り」、天野教諭が「堅牢藍染め」の講師を務め、両方の体験を2班に分かれて交互に行いましたが、どちらの体験も初めての私(教頭)には、とても興味深く面白いものでした。

こんにやくがまるでサツマイモのお化けのようなイモから出来上がる様子は驚きでした。出来上がったこんにやくは灰汁抜きをしなくてもすぐにスダチや醤油などをつけ、刺身で美味しく食べられることはさらにビックリでした。このレシピを作るため、講師の間教諭は試行錯誤を繰り返しながら最適な木灰液の濃度を見つけたそうです。



藍染めは最初にハンカチを折るところが難しかったです(私には)。一生懸命過ぎて写真が撮れませんでした。結局私は上手に折ることができずPTAの委員さんに手伝って頂き、何とか折りあげてゴムで縛るところまで漕ぎつけました。ゴムで縛る場所をどこにするか何ヶ所にするか、また端をラップで包む処理を行うかどうかで、出来上がりの模様が決まります。もとより「こうなるはず」というイメージも湧かないままに、藍染め液をつくり、その中に縛ったハンカチを入れて藍染め液に浸し、水洗をおこない、最後に中和洗浄をすると、鮮やかに美しい藍色が浮かび上がりました。作業をすすめる際、液体で目や肌を傷めないようにみなさんゴーグルや手袋をして、物々しいながらユーモラスな姿で作業に熱中していました。



両方の体験を終わって、一同に集まりパンとジュースでお昼にしました。今回の研修の運営にあたった能勢高校PTA生活厚生委員の皆さんが司会を務め、各校PTAの自己紹介や大じゃんけん大会等をして楽しみ、最後に全員で記念写真を撮って終了となりました。

あいにくの雨のため農場全体をご案内できなかったことが残念ですが、「農場を、保・幼・小・中・地域の交流の場に」のコンセプトのもと、能勢高校農場に実際に来ていただき、その魅力の一端に触れることは達成できたのではないのでしょうか。

今後も農場を活用した様々なプログラムを用意し多くの方に訪れていただくことで、能勢高校の教育成果や取り組みを広く地域に発信していきたいと思っております。

**いよいよ、「能勢高校を応援する会『町ぐるみ応援団』」結成記念総会の開催が迫ってきました！  
12月12日(日)午後2時(受付は午後1時、アトラクションは午後1時30分) 淨るりシアターで  
藤原和博さんの記念講演もあります(無料!)。みなさん!能勢高の応援よろしくお願ひします!!**